

## 平成26年黒石市教育委員会第9回定例会会議録

日時及び場所 平成26年9月29日(火)午後3時 黒石市産業会館 小会議室

会議出席委員 委員長 村上良子  
1番 阿保淳士(教育長)  
3番 津軽承公  
4番 中村康

会議欠席委員 2番 千葉小夜子

### 説明のために出席した者の職氏名

教育部長 奈良岡 和 保  
指導課長 宮崎 晃 一  
学校教育課長 山谷 博文  
社会教育課長 駒井 昭 雄  
文化スポーツ課長 成田 秀 範  
学校教育課長補佐 西塚 啓  
学校教育課総務係長 中田 智 子(書記)

### 会議に付した案件

- 第1 会議録の承認
- 第2 会期の決定
- 第3 会議録署名委員の指名
- 第4 教育長等の報告
- 第5 議案第70号 黒石市立黒石幼稚園の廃止に関する方針について
- 第6 議案第71号 旧松の湯再生2期工事計画の一部変更について
- 第7 議案第72号 平成26年第3回黒石市議会定例会に提出する議案に対する意見について
- 第8 議案第73号 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員に係る懲戒処分等について
- 第9 議案第74号 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員に係る懲戒処分等について

### 会議の顛末

開会宣告(午後3時)

第1 会議録の承認

平成26年黒石市教育委員会第8回定例会の会議録については、全員異議なく、原文を承認する。

## 第2 会期の決定

会期については、平成26年9月29日の1日とすることで、委員全員異議なく、決定する。

## 第3 会議録署名委員の指名

村上委員長が「村上良子委員長」と「中村康委員」を指名する。

## 第4 教育長等の報告 なし

日程第7は意思形成過程情報、日程第8及び日程第9は人事案件のため、秘密会にしたい旨委員長から発議があり、委員全員異議なく、これを可決する。

## 第5 議案第70号 黒石市立黒石幼稚園の廃止に関する方針について

教育部長が資料に基づき説明し、審議に入る。

津軽委員 新聞報道等を私も注意深く拝見しておりますが、様々なご意見の中で、延長保育の実施等の努力がなかったのかなどがありました。閉園までの間、なんとか延長保育を新たに模索するようなことは考えられないのでしょうか。

教育部長 延長保育に関しては、現在の黒石幼稚園の保育は午後2時までとなっております。延長保育等特別保育の考え方としては、保育所には延長保育あるいは休日保育、一時保育、病気・病後保育などの制度がございます。これは、国の方で支援制度を幅広く設けているためにそうした特別保育をやると国の方から補助金が出る仕組みになっています。これに対して幼稚園の運営にはそうした延長保育をした場合の国なりの補助制度というのは全くありませんので結局は市費で賄う。やるとすれば市費で賄うことになるのですが、今の黒石幼稚園の体制でそれが出来るかという、以前に協議した経緯がありますが、なかなか難しい。現状のスタッフでは難しいという状況でございます。そうした理由から延長保育はやっておりませんし今後も考えてございません。

津軽委員 人員と経費が問題なのですか。

教育部長 はい。

中村委員 質問といいますか、意見と少し確認をしたいことがございます。私も一応、OBといえますか、黒石幼稚園の卒園生でございまして、思いもすごくありまして、以前は署名もした一人でございます。その後、教育委員を拝命しまして、学校訪問等で幼稚園の教育の状況を見てきました。小学校のPTAでもありますので、黒石幼稚園を卒園した保護者の皆さまとか交流することによって、とてもすばらしい存在であるとひしひしと感じておりました。特に、保護者の方々がPTA活動に非常に積極的だと強く感じておりました。そして、委員会に入りましてから、何度となく園児が少な過ぎるのではないかと、何とかして

増やしていかななくてはいけないのではないかなどの要望といたしますか、問題提起をさせていただいた経緯もございます。おそらく、それに対してもいろいろ努力されてきたかと思うのですが、その経過も今にいたっているかと思えますけれども、幼稚園側において今まで園児が減っていく中での努力があれば教えていただきたいと思えます。

教育部長 私も黒石幼稚園卒としては非常に今回の提案に関しては苦しい立場でございます。黒石幼稚園のこれまでの先生方の子ども達に対する指導というのは委員の皆様、もう十分御承知のこととは思いますが、県内の公立幼稚園でも非常に質の高い授業を展開してきたというのは、他の市町村、あるいは各種団体からも慕われているところでございますし、その黒石幼稚園を卒園してきた子どもたちが、小学校に入っても、やはり黒石幼稚園の子どもたちは違うというような評価を受けているということも重々認識している。そういう素晴らしい教育活動を展開してきた黒石幼稚園であるということは重々理解しております。何しても、公立の黒石幼稚園が積極的にPRすることというのは非常に難しいものがある。というのは、他の私立の幼稚園との兼ね合いでございます。まずは、他の私立幼稚園と競合してまで園児を奪い合うというような立場にはないということをご了解していただきたいと思えます。

中村委員 例えば、我が家も子どもが二人おりまして、残念ながら僕の後輩にはなれませんでした。なぜかというやはり家庭の事情です。幼稚園入園の条件が適応する家庭がどんどん少なくなって許される状況が少なくなっているのではないかと、世の中の流れかなということで、非常にそこは否定しがたいものがあると思っております。

津軽委員 平成21年の時の話し合いで5年後また検討するということでした。思い返すと、事務局も私どもと共に毎年の推移を気にしながらの5年間だったと思えますし、平成25年度の人数を見ても非常にショックを受けるくらいガタ落ちだということもびっくりいたしました。昨年来みんなで話し合ってきて、来年は5年目だということで話をしてきましたが、共有している情報と思っていたことが実は共有されないで引き継いでいったということは、確かに努力が足りなかったというか、認識があまかったとかなと感じる部分ではあります。議会でも教育長さんが謝罪の言葉を述べられていたことを拝見しました。我々は、謙虚にそういう声を聞きながら、今、決断するということに対しては、はっきりとしていかなければいけない。そして、次の在り方としてしっかりと考えていくというのは、ここで我々として総括しておくべきではないかと思えます。

村上委員長 はい。ありがとうございます。東小学校に2回務めたことがある私にしても、黒石幼稚園の子どもたちは、小学校に入ったときにすぐ集団生活に順応できるというか、個性を磨きつつ集団のことを考える子どもたちが非常に多くて感心してまいりました。また、管理職になったときも、幼稚園の運動会なども何回も行きまして、本当に人とかかわる力や相手の話を聞く力は全部育っている子ども達であると思えます。人数がここまで減るとは私も残念でなりません。5年前に検討した時も、人数は減ってきているものの、まだ集団の教育は可能であるし、幼稚園の先生方の教育的な努力、また、他の幼稚園の手本になっている教育活動もあるので、もう少し様子を見て極端に減ることがないようにという願いでここまでできました。閉園に至る理由を4点おいていますが、そういうことも全部考えながら結論を出さなければいけないのかなと苦しい気持ちでございました。

以上、全員異議なく、原案を可決する。

教育部長が資料に基づき説明し、審議に入る。

津軽委員 追加ってことで約50,000,000円ということですが、突然出てきたわけではないと思いますが、ここに至る経緯をお知らせください。

文化スポーツ課長 土蔵の解体と建築につきましては平成25年度中に蔵の部分を補修する形で計画しておりました。本来土蔵の中大体30センチ近くの土蔵の壁があるのですが、2・3年前の大雪の時に相当ダメージを受けたようで、北側の部分の壁が崩落したものとわかっております。また、それが、4面、それから屋根と全部土蔵できているわけですが、そこが崩落したことによってクラックが入り、屋根の上の部分も危険になった。他のところも歪んでいるので、今の状態だと補修はきかないだろうということになりまして新たに追加工事ということになりました。中庭の工事に関しては、これは当初予定計画からあったものですが、これは別に発注しようとしたものでしたが、これも今のこの2期工事の中に一緒に入れてしまいたいという方針になったので、ここに追加という形になっております。そして、ポンプ室とそれから消火設備の排水の管ですが、これも本来、この蔵の部分がないと、別工事で本管をこみせ部分に入れようという計画がございました。しかし、今年の予算内でそれをやろうと思っていたものが、土蔵の崩落があったことによって出来なくなったものですから、その部分を小さくして、今はその松の湯の敷地内の所だけをやろうということになり、当初の計画に入っていないものに今のこの計画の部分を追加したというものであります。

津軽委員 中庭作庭というのは、木でするので、成長する過程での姿かたちとか、剪定とか、何年か計画の中での庭造りということになっていくのですか。

文化スポーツ課長 中庭の作庭工事の部分について、最初、これは解体にあたった時に堆積物が相当ありまして、それを片づけているうちに、もともとの庭の部分、要するに大石武学流の庭園であつたらうと思われる痕跡がたくさん見つかってきました。それで、文化庁で一回指導に来た時に見てもらいまして、状況を説明したところ、これも松の湯の外部工事として一緒に補助対象としてもいいということを経済部からもOKをいただいて、その工事の部分を庭園も大石武学流で復元しようということになったものであります。

津軽委員 そうすると、これ以外にまた、後で将来的に庭に対して掛かるものがあるかという予想は今のところは考えなくていいですか。

文化スポーツ課長 その部分に関しては、剪定とか雪囲いなどの部分と考えておりますので、作庭の工事はこれで完結することになっております。

津軽委員 後は維持の問題ですね。

文化スポーツ課長 そうです。

中村委員 現行と変更後ということで金額が50,000,000円ほど膨れ上がっているわけですが、これはかなり財政に対しても大きな影響があるのではないかとと思いますが、その辺は大丈夫なんでしょうか。

文化スポーツ課長 先ほど津軽委員にも説明したとおり、当初予算額は変わっておりません。ただ、本来こみせ地区に給水管を入れようとしていた30,000,000円程度の工事の部分を蔵の解体・建築にもってくるものですから、その部分で変更を生じたということになっております。全体の予算上は変更がありません。

以上、全員異議なく、原案を可決する。

公開審議終了（午後 3 時 4 0 分）

黒石市教育委員会会議規則（平成25年黒石市教育委員会規則第1号。以下「規則」という。）第20条及び第21条の規定に基づき作成した平成26年黒石市教育委員会第9回定例会の会議録（秘密会を除く。）について、規則第22条の規定による承認を受けたので、規則第23条の規定に基づき、ここに署名する。

平成26年10月30日

黒石市教育委員長 （村 上 良 子）

黒石市教育委員 （中 村 康）